



表題・年代	検番と芸者	明治中期
コメント	<p>明治に入ると荘原の町は簸川平野の玄関口として松江との船運が行き来し、港町・宿場町として最盛期を迎える。汽船が着くと人力車が十台、二十台と走り出し、船川には検番の屋形船もあり、旅館、割烹料理屋はお客と芸子さんと賑わったという。当時の様子を伝える芸子さんの姿。</p>	
分類・提供者	にぎわい 511	池淵京美氏